



# おはようロスアンゼルス

倫理研究所U.S.A. 南カリフォルニア倫理の会  
2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504 Fax: (310) 323-6737

5月号会報

2012年(平成24年) 5月 1日(火)

NO. 129

## 満開の桜と結婚記念日

倫理研究所国際部長

新原隆一

南カリフォルニア倫理の会の皆さん、おはようございます。その後もお変わりなくお元気で過ごさしのこととお喜び申し上げます。

日本も厳しい寒さが3月末まで続いていましたが、ようやく本格的な春の到来となりました。今回は、皆様にとつては懐かしい桜の情報をお届けしたいと思います。

今年の日本列島で、初めて桜の開花が伝えられたのは、三月二十一日、四国・高知市からでした。東京はそれから十日遅れて三月三十一日に開花宣言が行なわれました。そして、六日後の四月六日には満開宣言が発表され、十日の今日も最高の状態で咲き誇っています。

日本の桜の開花宣言はどのようなに行なわれるのかご存知でしょうか。実は、日本列島各地の桜の名所に、「標本木」と指定された桜の木があり、その木に開いた桜の花が五、六個確認されたときに「開花宣言」が出されるのだそうです。東京の標本木は、

千代田区九段の靖国神社の境内にあります。今年は三月の寒さが厳しく、長引いたことで平年より三日も遅い開花だったとか。

日本は今週から入学式のシーズンで、開花が遅れたおかげで満開の桜に囲まれてあちこちで入学式が行なわれています。冬の間、枝だけしか見えなかった木に一斉にピンクの花が咲き始めると、心がうきうきしてきます。特に桜の木が密集して植えてある「桜並木」を見つけると「ウワー」と声が出るほどの感動を覚えるのは日本人の証拠だと思います。

東京の桜が満開になった四月六日の金曜日、昼食の後倫理研究所から歩いて十五分の靖国神社、千鳥が淵、北の丸公園を散歩してみました。平日の真昼だというのに、地下鉄の九段下駅から靖国神社や千鳥が淵に向かう歩道は人でいっぱい溢れていました。人の流れに任せてゆっくり歩いて進むしかありません。その三か所を中心に「千代田桜祭り」が行なわれていたので、暖かなお天気に誘われて多くの見物客が訪れたのでし

よう。満開の桜も見事でしたが、それに惹きつけられて集まってきた人の多さには圧倒されてしまいました。

九段坂を下りて帰りましたが、途中に九段会館(その前は遺族会館と呼ばれていた)という古い建物があります。四十一年前の今日、四月十日に私たち夫婦が結婚式を挙げたところです。その年も桜が満開でした。ところが今は閉館となっております。

昨年三月十一日の東日本大震災で天井が崩れ落ち、中で行われていた専門学校の卒業式に出席していた数名が犠牲となられました。一年以上経過した今も重い門が閉ざされ、その会館はひっそりと建っていました。私たち夫婦の出発地ですので、感謝の手を合わせましたが、複雑な気持ちでした。毎年見事な花を見せてくれる桜を手本に、私も毎年新たに生まれ変わって成長していきたいと思えました。(二〇一二年四月十日)



## 倫理文化講演会

テーマ「感動が心の扉を開く」

日時 五月二十日

(日) 午後四時

講師 田形健一常任理

事

場所 ホリデーイン・

トーレンス



### お誘いしましょう

心を癒すお話しは、機会がないと、なかなか聞けないものです。好きなことを楽しむのもいいですが、人間は時々心の栄養が必要です。そしてそれは誰かが情報を教えてあげないと知らずに過ぎてしまいます。年に一回のチャンスです。お友達にお声をかけましょう。お誘いしましょう。心の栄養をたっぷり摂って、笑顔になってもらいましょう。

月刊誌『倫理』の五六一号、（一九九九年十月号）の『味読身読』の欄に、今年度の文化講演会の講師、田形健一先生が書いていらつしやいますのでご紹介します。

## 唯一不拔の存在

田形 健一

今から三十三年前、叔母に誘われて倫理講演会に参加したときのことである。当時私は、大受験に失敗し浪人生活を送っていた。講演会終了後、叔母は私の手を引っ張るようにして講師のK研究員の所へ連れていき、個人指導をしていた。お願い出た。私は一瞬呆気にとられたが、大きな劣等感に苛まれ、忸怩（じくじ）たる思いで毎日を過していたので、よい機会かもしれないと思い、悩みを打ち明けた。

一通り話し終えると、K研究員から「劣等感は怠け者の言い訳だ。君は自分をダメな人間だというが、今までに何か一つでも最後まで徹底的にやり抜いた

ことがあるのか。人間、努力せずして上達するわけがないじゃないか」という厳しい言葉が返ってきた。

初対面の人に叱責されて驚いたが、K研究員の言葉は正鵠（せいこく）を射ていた。それまでに何一つとして最後までやり通したものがなかったのである。すべてが尻切れとんぼ、竜頭蛇尾の生活であった。さらにK研究員は、真剣なまなざしで言葉を継いだ。

「どんな人間でも朝起きひとつやっついていれば必ずものになる。朝起きには金も時間も必要ない。能力、学歴、家柄、身分、地位など一切関係ない。あれこれと悩むひまがあれば、朝起きに一心不乱に取り組んでみなさい。」

その一言一言が私の心を揺さ振り、前途が明るく開かれたかのように思えた。（よし、朝起きに取り組んで劣等感を克服しよう）。そう決心し、さっそく「朝の集い」に通い始めた。

純粹倫理を学ぶようになり、さらに私を開眼されてくれたも

のがある。それは、『青春の倫理』（丸山敏雄著）の次の一節であった。

「まことに、人に優劣があるのではない。上下尊卑があるのではない。またその能力にも、技芸にも、甲乙があり品評されるようなものではない。人がその平常心にあつて、その全に生き、その満に働くとき、その人は常に唯一不拔の存在である。

花にツバキ・ウメ・サクラ・モモがあり、（中略）ボタン・ユリ・アサガオがある。大きなヒマワリ・小さなコゴメ花、まことに百花繚乱、どれをとり、どれを捨てるすべもない。（中略）

衣類に、シャツあり、キモノあり、チョッキあり、ズボンあり、上着あり、外套あり、マフラーがある。一つを他と取りかえることはできぬ。これを思うとき、人もまた、その己の真に生きたとき、捨つべき一人もなく、絶対存在でない一人もないのである。」（七一〜七二頁）

この文章を目にした私はえも言われぬ感動を覚え、（私も唯一不拔の存在なのだ。努力すれば

必ず世の中の役立つ人間になれるのだ」と、希望に胸が大きくふくらんだ。

\*

倫理研究所に入所して今年で二十九年目を迎えた。若い頃は何事も中途半端で、最後までやり通すことができなかった。そんな私が今日まで無事に務めることができたのは、純粹倫理の教えによるところが大きい。

無論、順風満帆であったわけではない。壁にぶつかり、挫折しかけたことも幾度かあった。特に入所もない頃は、この仕事は自分には向いていないとか、能力がないなどと自分の努力不足を棚に上げて言い訳ばかり考えていた。何と脆弱であったことか。今は、〈できない理由を言う前に先ずやってみることだ。あとで後悔しないように徹底的にやり抜こう〉と、気持ちを奮い起たせて取り組んでいる。

「人間は畏敬されるようになければだめである。人と対していて、一つの圧迫を感じ

させるような強さが、なければならぬ。単なるお人よしでは、つまらぬ。正しい人だからといって、悪人から、なめてかかれるような人ではならぬ。あくまで、やってやってやり通す。その気魄が、身体に充実して、周囲の人も、これに打たれるようではなくては物の役にはたたない。それには、朝のおきかたから、まず、しゃんとし、りっぱに飯をくい、しごとにはげみ、夜はぐっすり眠る、こうして緊張した生活をしないでならぬ。」（丸山竹秋著

### 『0の誕生』二〇七頁

この一節は、私が自らに言い聞かせ、また講演会で聴衆に何度も繰り返して訴えてきた言葉である。

他人と比較することなく、他人の目を気にすることなく、自らを磨き高める努力を怠らず、畏敬される人間をめざして、さらに精進を重ねていきたい。



### 推薦図書

#### 『大丈夫』

山口健次理事の著作です。〈青春の章〉〈朱夏の章〉〈白秋の章〉〈玄冬の章〉と、人生を四つの年代に分け、それぞれに感謝と報恩に満ちた言葉が詰まっています。

#### 笑顔のねがい

あなたの笑顔は  
澄みきった水のようにだ  
どんな宝石より 美しい  
あなたの笑顔が  
あなたの大切な人たちと  
あなたが出会うすべての人たちに  
心のうるおいと 安らぎと  
そして 希望をもたらすのだ  
自分がつらいときほど  
笑ってあげられたら  
その笑顔は  
あの虹よりも美しい  
悲しいときほど微笑んであげられたら  
空も雲も 山も草木も  
いっしょに微笑み  
虹といっしょに

泣いてくれるだろう

そんな愛に いつも燃えていたい

空よ 山よ 雲たちよ

そんな人間でありますように

ああ 大空の 虹よ

そんな一生でありますように 私たちが

いつまでも いつまでも

笑顔を保ち続けることが

できますように

〈青春の章〉より

#### 『信じる力』

戸田徹男常任理事の著作。著者は〈ひきこもり〉を生涯研究課題としている。

――全編に共通するひきこもり解決のプロセスは、「子供に向けられていた親の関心を、自分自身の親との未解決問題や夫婦関係の改善に向けていくことで、親の熱い視線から解放された子供がやがて自ら動き出し、将来を模索し始める」という流れです。（中略）

親の意識が変わるだけで子供は変わります。――

〈百七十二頁〉

### 実践報告

一斑 草野律子

夫の店を手伝い始めて一年半近くになります。一日中一緒に居て、彼のこれまでの大変さが良く分かります。でも主婦をしていた時には感謝できていたことが、私自身が疲れてくると、「ちよつとこうしてくれれば嬉しいのにお・・・」と悲しくなる時があります。

先日、仕事を早く終え、夫に誘われるまま、ゴルフの打ちっ放しに行きました。海の向こうに沈んでゆく夕日と、刻々と変わりゆく空を眺めながらボールを打ち込んでいきます。いつもなら断ってしまうゴルフでしたが、いつの間にかゆったりとしている自分に気づきました。が、それよりも夫がとても喜んでくれていることに驚きました。こんなに喜んでくれるなら、また来てもいいかなあ・・と、思いました。

相手を喜ばせることも、実は自分の為に相手がしてくれていることも、自分本位でいては見えないのかもしれない。

おめでとうございます

『しきなみ』四月号

三席 松永典子 群螢集（東京）

目に見えぬ菌に冒され病む夫の心臓内臓一度にくずれる

入選 梅本豊造 群螢集（東京）

入選 ホン史子 群螢集（東京）

一席 草野律子 真砂集（西東京・海外）

我が子らに何度もせがまれ読みし本セピア色した親子の時間

入選 松元依子 飛雲集（日東京・海外）

『秋津書道四月号 新年競書』

一席 滝川政和 芸術部（人の部）

力強い筆線が躍動する、生命感あふれる書。

一席 梅本豊造 高等部（東京）

墨色良く勢いがあります。余白も生きており、素晴らしい作品です。

三席 長谷川公子 高等部（東京）

一所懸命に書かれた線が澄んでいます。日頃の姿勢でしよう。

六席 堀井幸江 高等部（東京）

二席 咲田静子 一般部 行書（東京）

筆力のある素晴らしい作品です。伸びやかな線に惹かれた。

七席 前田グレース 一般部 行書

入選 羽島照子 一般部 草書

入選 竹内康子 一般部 楷書

入選 トイフェル佳江 一般部 楷書

短歌のできた境地 (61)

年末に吾娘が届けたアマリリス

いのちいっぱい咲きてほこりぬ

山内洋一

遠く離れた異国で暮らす娘さんよ

り、アマリリスの球根の鉢が届けられました。土しか見えていなかった鉢からは、やがて小さな芽が顔を出します。

三本の茎からは各々が四つの大きな花を咲かせてくれたそうです。アマリリスに元氣付けられながらその成長を見守る山内さんの中で、いつしか娘さんとアマリリスが重なっていたのではないのでしょうか。いのちいっぱい咲きほこっている大きな赤い花々が、父と娘の心をひとつに繋いでくれました。



しきなみ短歌

避難所で肩を寄せ合う人々の試練に堪える絆尊し

長谷川公子

庭仕事暑い最中をやり終えれば頬に体風のプレゼント

塩出笑子

刻々と夕やけ色が変わり行くこの世のいのちあらわすこどく

橘高比呂美

チョコひとつはおぼる午後の休憩時間あと二時間の活力のもと

伊澤潤子

オリビアは停止作動を如何するか解らず急に「ストップ」と叫ぶ 梅本豊造

姑の部屋孫のクラフト壁一面温み溢るるミニ展示会 梅本和子

のびをして落葉ふみつつ虎ねこはのっそりのっそり庭を横ぎる 門園美枝子

介護職死を見せくれし老人に感謝をこめて合掌をする ホン史子

「歩ける」を常と思ひし日は過去にリハビリの夫の姿悲しも 松永典子

「あなたの胴どうしてくびれていないの」とうタイトル目にし雑誌を買いにき草野律子

深き溝恐れをなしてすくむ犬細き板見て身を丸くする 摺木洋子

月あかり異国の吾娘を思いつつ散歩の友はわがかけひとつ 山内洋一

まだ明けぬ有明の空にひっそりと優しく光る月は消えゆく 松元依子

ひとひらの赤い花びら舞い込んで春の香りす朝のドライブ 大川敏子

静かなる夫の書きたる半切に三文字の漢字が雄々しく走る 滝川歌子

大寒の朝日をあびて寒椿みどり葉の濃し明るく光る 奥本洋子

爆竹の音を聞きつつそばを食べ家族揃いてゆく年惜しむ 杉野和子

ジャングルを拓き農園とせし人の語る言葉に力溢るる 伊勢田豊

波に抱かれ静かな夜に安らえる養殖の牡蠣今を生きおり 中村正生